

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和8年度 第1回)

- 1 日時 令和8年6月11日(木) 9:45～12:00
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 出席委員 小松 明 委員長、村山 紀行 委員、北村 真理 委員
小林 里実 委員、猪熊 啓子 委員、湯本 千里 委員
住田 晶子 校長、内山 大輔 教頭、片岡 香子 総括教諭
- 4 会議の内容
 - (1) 学校長挨拶
住田校長：本日はお集まりいただき、誠にありがとうございます。
このたび、あらためて委員の皆様を委嘱することになりました。
委嘱期間は、2年間となります。
どうぞ、よろしくお願いします。
 - (2) 委嘱状交付
全員に委嘱状交付。
 - (3) 自己紹介
 - (4) 会長、副会長の選出
会長に、小松委員を選出。
副会長に、山口委員を選出。(山口委員は、本日欠席)
 - (5) 授業参観
 - (6) 協議
 - ① 学校運営協議会について
海老名市学校運営協議会規則、実施計画の説明
住田校長：これまで3年間は、地域とのつながりに力を入れて取り組んできた。今年からはインクルーシブ教育にスポットを当てて、取り組んでいきたい。
特に、子どもの声を聞くことを大事にしていきたい。
 - ② 令和8年度の学校運営、学校行事等について
○学校経営方針、いじめ防止基本方針等について

住田校長：今年度は、児童数 300 名でスタートした。そのあと、転入生が入り現在は 302 名となっている。今年度から国際級を立ち上げ、一人一人のニーズにあった指導ができるようにしている。学校のグランドデザインについては、めざす児童像を短い言葉で分かりやすいものに修正した。また、いじめ防止基本方針も内容を精査し、実効性のあるものに改定した。また、いじめや問題行動を認知した際のフローチャートも作成し、迅速に対応できるようにしている。このことの詳細については、教頭から説明します。

内山教頭：いじめや問題行動に係る行為等を認知したときに、情報を関係職員で共有し、迅速な対応が取れるようにフローチャートを作成した。これについては、年度はじめに全教職員へ周知し、徹底するよう伝えている。

小松委員長：いじめ問題については、スピード感が遅くなるといけない。初動が大切になると思う。

実際に、問題行動を認知した際に、共有する方法はあるのか。

住田校長：実際には、関係者で可能な限り早めに集まって対応を協議している。

内山教頭：問題行動やそのことについて協議した内容については、記録に残し、教職員で共有できるようにしている。

小松委員長：対応が遅くならないように、取り組んでいただきたい。

○教育課程、校内研等について

片岡総括教諭：今年度は、2 学期の開始が 9 月 1 日からになり、個別教育相談が 5 月、7 月、12 月の年間 3 回の実施となっている点が大きな変更点となっている。この影響で、これまで授業時数としてカウントしていた大掃除を掃除の時間を拡大して行うなど、授業時数を確保しながら、様々な行事が実施できるように工夫している。

校内研究については、「自分たちの思いを実現しよう」というテーマのもと、課題を見つけて、探究できる力を子どもたちに身に付けられるようにしていきたいと考えている。教科は、主に生活科や総合的な学習の時間で研究していくことになる。6 年生は、インクルーシブ教育について探究活動を行っており、地域に発信することをめざしている。

小松委員長：外トイレの壁を塗り替えたり、ベンチを作成したりするなど、これまでの 6 年生は、目に見える物を作ってきたが、どのように達成感を感じさせられるかという点も大事になってくると思う。

住田校長：6 年生の活動は、下の学年の手本になることが多い。目に見える物でなくとも、6 年生の取組を見て、学んでほしいと思っている。

片岡総括教諭：今年は、児童の語彙力を伸ばすことにも力を入れたいと思っている。ことばの教室の教員に助言をもらいながら、言葉のコーナーを昇降口に掲示している。今後は、辞書引きのアプリを活用したり、本の貸し出し

冊数を増やしたりすることも校内のグループで検討している。また、書く機会を増やす、新聞を活用した学習を取り入れるなどの取組も行っていきたい。

住田校長：児童が語彙力を身に付けるためには、教職員が意識することが第一歩になってくる。少しずつ、授業の中でも取り入れている様子が見られている。

猪熊委員：子どもは、ゲームからいろいろな言葉を習得している。

小林委員：授業で百人一首を行った際に、札が取れたことがうれしくて、その札の言葉を覚えていたことがあった。家でも子どもが好きなカルタをやることがあるが、楽しみながら言葉を習得することができている。知らない言葉を使ってみることも大切なのではないかと感じている。

先日、タウンニュースに有馬小の記事が載っていたが、それも子どもが自分で読んでいた。興味があるものが目につくところにあると、みんな読むのではないかと思った。。

片岡総括教諭：目につくことは、とても大事だと思う。

小林委員：トイレに掲示してある『Sei 通信』ことも、こんなことが書いてあったと家で話してくれて、それが会話につながっている。

○PTA、保護者ボランティア、地域力について

片岡総括教諭：PTAがボランティア制度となって2年目となる。昨年度までであったぶちいちご部とおこめ部と一緒にして、今年からいちこめ部として活動しているが、学校応援団の皆さんとともに、5年生の田植えや野菜づくりなどで多くの方のお力を借りることができている。また、はるにれフェスタや家庭教育学級も子どもたちのために企画をしてくださっている。

有馬小学校区は、人材に恵まれていると実感している。

○今後の取組について

住田校長：今年は、インクルーシブ教育の推進に力を入れていきたいと思っている。

先日は、管理職、総括教諭、教育支援CO、児童指導、養護教諭等でインクルミーティングというものを行い、有馬小の強みや課題、今後の取組について、意見を出し合った。今後、定期的に実施していきたいと考えている。

また今年度は、学校運営協議会の皆様を対象に、市教育委員会による対話の場が開かれます。2回目の学校運営協議会の後半に教育長もいらっしゃいますので、ご承知おきください。

このあとは、これまでの学校生活の様子を映像で紹介します。

～映像をもとに紹介～

○運営委員会児童へのインタビュー

住田校長：授業の合間ではありますが、運営委員会の児童が来てくれました。日頃

からよりよい学校にするために活動を行ってくれています。今からインタビューをしますので、児童の思いを委員の皆様を知っていただけたら幸いです。

それでは、インタビューをします。

どうして、運営委員に立候補したのですか。

児童A : 去年に引き続き、たてわり集会などでみんなをまとめる存在になりたいと思ったからです。

住田校長 : 運営委員として、頑張りたいことはどんなことですか。

児童B : みんなを楽しくまとめたいのと、嫌な気持ちにさせないようにしたい。

住田校長 : 今年のスローガンを教えてください。

児童C : 「夢をもって失敗をおそれない有馬の子」です。

住田校長 : どうして、そのスローガンに決まったのですか。

児童D : 夢をもつことはよいことだし、夢に向かっていく上で必ず失敗することはあるかもしれないけれど、失敗をおそれずに挑戦する気持ちを忘れずにあきらめないでほしいからです。

住田校長 : このように運営委員会のみんなが頑張ってくれています。

村山委員 : 次に運営委員会で主催する行事は、どのようなものがありますか。

児童D : たてわり集会があります。先ほど言った目標が達成できるような集会になるように、内容を今考えています。

住田校長 : 6年生のみなさん、ありがとうございました。

(7) その他

次回の、学校運営協議会は、令和8年11月17日（火）9:45から開催予定。